

小さな町の工房から始まる “木×デジタル” 革命

～「ShopBot」による地域資源の価値創造とファブリケーションの実践～

ものづくり大学では、3Dプリンタやレーザーカッターなどの最新鋭のデジタル機器を活用して、構想したアイデアを試作し、具現化することできる ものづくりベース（MONO BASE）を開設しています。今般、新たにCNCルーター「ShopBot」を設置したことを記念して特別講義をオープン開催しますので、ご興味のある方は是非ともご参加ください。

講義の魅力

埼玉県横瀬町の木工ラボ「TATE Lab.（たてらぼ）」では、CNCルーター「ShopBot」を使って、地元の森の資源に新しい価値を吹き込む挑戦が進行中です。

今回の特別講義では、地域づくりのキーパーソンである「スーパー公務員」田端将伸さんと、TATE Lab.で活躍する家具職人の加藤健太さんをゲストに迎え、デジタルファブリケーションがどう地域とつながり、どのように人の心や社会を動かしているのかをハード・ソフト両面からリアルに語っていただきます。



全国一の稼働率を誇る本工房の ShopBot



埼玉県産針葉樹合板で製作した家具



ShopBotを使った加工作業の様子

写真提供：秩父経済新聞

開催概要

- 日時：2025年8月1日（金） 2限（10:50～12:30）※10:30受付開始
- 会場：ものづくり大学 製造棟 1 階ものづくりベース（MONO BASE）
- ゲストスピーカー：
田端 将伸 氏（横瀬町役場 地域連携室長／スーパー公務員）
加藤 健太 氏（家具職人／TATE Lab.メンバー）
- 対象：ものづくり大学 大学院生・学生、高校生等
※本講義は、ものづくり大学 大学院講義「デジタルファブリケーション特論」の最終回として実施します。
- 費用：無料
- 参加申込：以下のグーグルフォームURL又は右側のQRコードから参加申込をお願いします。

<https://forms.gle/YEug8ePemoSQuBrV7>



ものづくり大学 MONO BASE風景

